

# DIRECTOR'S VIEW

自主映像作家アンケート特集 ー 第4回 ー

●「中尾真司探検隊シリーズ」が全国で大人気の、河田秀二監督の登場です。

生年月日	1965年
氏名	河田 秀二



### ○プロフィール

・「ウチヤマン」「仮面ライダー」「マジンガーZ」が好きな、ごく標準的の子供であったが73年頃に「太陽にほえろ！」という刑事ドラマに出会ってから、人生が狂い始める。

劇団を組んでクラスで刑事物の劇を披露し、シナリオを書いてラジオドラマを作る等、創作活動活動に没頭し、高校3年生の時に遂に映画制作へと足を踏み入れてしまう。

大衆に愛されるエンターテインメントな作品への傾倒は、歳を重ねても変わることが無く自作の映画もそういった要素を「売り」にして、現在はプロ入りを画策中。サークル名は「JPエンターテインメント」。

### ○注目！ただで映画を山ほど観れる！

・青年文化センターB1Fの「資料サービスセンター」では、映画や演劇・音楽などのビデオが、無料で観ることが出来ます。

何より、貴重なインディーズの映画なども観ることが出来るというのがウリ。地下鉄旭ヶ丘駅前すぐにあります。お問い合わせは、☎〇〇〇〇まで。



### ＜次号予告＞

前号でお伝えした仙監督の新作映画の進行状況や、市内で映画を制作している方へのインタビュー、7月17日 監督の新作映画の制作現場レポート等を予定しています。お楽しみに！「これから映画を作ってみよう」とか、「今、映画を作っています」という方、常時情報をお待ちしております。―――では！

Q：映画作りへと導かれた経緯をお聞かせ下さい。  
A：小学校の頃から劇やラジオドラマを創作し、出演する事も大好きだったので、高校時代には映画の仕事に就きたいと考えるようになっていました。そんな時に、ガムシのアクションを目指すと出会い、自然発生的に彼主演のアクション映画を作る事になったのが、きっかけでした。自分にとっては、幼い頃の「太陽にほえろ！」ごっこの延長線上に、究極の形として「映画」が存在していたという感じです。

Q：制作上での失敗談をお聞かせください。  
A：監督2本目の作品で、スナックを3日間借りて撮影した際、すべて順撮りで進めた為に、1カットごとに照明位置もカメラも変えて、とてつもなく時間がかかった。しかも、露出計測が間違っており、後日現像されたフィルムは全て真っ黒画面！よく自殺しなかったと思う。

Q：あなたに映画製作者としての下地があったとすれば、それは何だったと思いますか？  
A：幼い頃、「マジンガーZ」を見ながら、「今のマジンガーの意味はみんな分かったらどうか」とか、妙に作り手の立場から見るクセがあった。特に、「わかりやすさ・わかりにくさ」へのこだわりがあり、それが現在の作品づくりに役立っていると思う。

Q：制作の原動力になっているものはなんですか？  
A：映画を撮っている現場では自分がボスであり、良いものを作れば皆がはめてくれて、尊敬の目で見てくれる人もいます。日常生活では抜き出たものが何もない自分にとって、唯一、存在価値を見出せる世界。これ以上の快感はありません。

Q：制作で障害になっているものは何ですか？  
A：自分たちがアマチュアであるという事。メンバーそれぞれの仕事やプライベートの都合でスケジュールもままならないし、それを責める事もできない。よりレベルの高い物を作ろうとすればする程、アクションである事の不自由さを痛感する。映画に集中したい。

Q：あなたにとって映画とは何ですか？  
A：最も完成された娯楽。

Q：「自主映画」と聞いて思いつくこと  
A：自由なようでいて、物凄く不自由。その中で、どれだけ事が出来るかが腕の見せどころ。最初から諦めて、ちっぽけな事しかしようとならない人多すぎる。でかい事を目指す人を、冷笑する奴が多すぎる。作り手の意識の差が、これほどハッキリ見えてしまう世界は他に無いと思う。

★7月20日より、青年文化センターでB1Fで「中尾真司探検隊1+2」を観ることが出来ます。「中尾真司探検隊3」は、全国のビデオショップ「TSUTAYA」にてレンタル中です。要注目！！

### ○代表作

## 中尾真司探検隊シリーズ

出演◆河田秀二・久松広宣  
91～96年/大阪



・幻の猿人パラノイ、幻の444号屋人の卵、そして幻のあの卵を追いかけて、命がけの冒険を繰り広げる中尾真司探検隊。強烈な個性を放つ彼らの活躍を、アクション・ギャグとスピードなアクションを散りばめて、自主映画ならではの自由な発想と大胆なロケーションで描いたエンターテインメント映画シリーズ。全国の上映会で引っ張りだこの人気作品。観客のウケに答えて3本のシリーズとなり、さらにビデオ化されてもいる。人気・実力ともに充実の作品です。

### ○主なフィルモグラフィ

・ウチヤマンの中へ	83'	(共同監督/出演)
・Love Letter	83'	(監督/主演)
・トワイライトシティ	86'	(監督/出演)
・劇	97'	(監督)
・Start afresh	88'	(監督/主演)
・Just Smile	88'	(監督/主演)
・Happy Hat	89'	(監督/主演)
・屈辱は弾丸で返せ！	90'	(監督/出演)
・中尾真司探検隊	91'	(監督/主演)
・中尾真司探検隊2	92'	(監督/主演)
・海・K A I K I	92'	(出演)
・BANANA GIRL	95'	(出演)
・Maybe Tomorrow	96'	(出演)
・中尾真司探検隊3	96'	(監督/主演)

Q：次回作についてお聞かせ下さい  
A：自分にとって最後の「自主映画」にするつもりで今まで集大成とも言える刑事物のアクション・コメディを撮影中。甘えを持って、現在の自分達に出来る事は全て詰め込みたいと思っています。年末完成を目指しています。



△「中尾真司探検隊3」より。

Q：あなたが作品を作るとき常に心掛けているものを一つあげて下さい。  
A：映画は不特定多数の人間に観てもらおう物であるという事。観た人の大半が理解出来ないようなものは絶対に作るべきではない。

# BACK WORDS

通巻33号

この情報紙はエルパーク情報ステーション(141・5F)その他、各所のご好意によりスペースを頂いて無料配布しております。また、上映会や、スタッフ募集等の情報をお持ちの方は右の住所までご連絡下さい。皆様のご意見等をおまちしております。★次号は8月15日発行

発行/仙台シネアスト

編集責任/岸浪清史・斎藤拓生